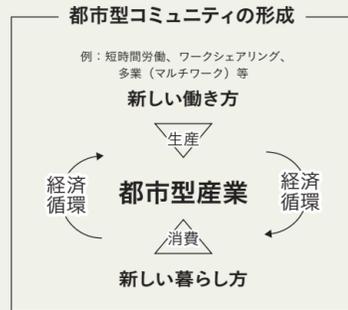


# 地域へ想いを持った 民間事業者たちが一斉に動き出している

## 快適な暮らしのスタイル

空間資源、産業・文化・歴史資源、人的資源を活用し、複合的に地域経営課題の解決を図ると同時に、ニーズに合ったまちのコンテンツ（都市型産業）を創出します。

それらのコンテンツによって、新しい暮らし方（ライフスタイル）や新しい働き方（ワークスタイル）を生み出し、地域経済の活性化を図ります。



これらのコンテンツが機能することによって、ベッドタウンにおける新しい都市型コミュニティが形成され、地域に暮らす一人ひとりの生活環境に合った、それぞれの快適な暮らしのスタイルを創造していきます。

## A NEW CHAPTER FOR PLAYERS

### そうかりノベーションまちづくりに関わるプレイヤーの新たな展開

創造性や高い付加価値を追求する都市型産業を実践する中で、市外の方々にもその価値を認められ、関係性を育てている2つの事業者を紹介します。

**CASE 01** 草加の住宅街に畑を構える「chavipelto(チャヴィペルト)」は、江戸時代から続く農家の5代目・中山拓郎さんが、若いスタッフと運営する有機JAS認証の都市型ファームです。先代までは市場出荷を行っていましたが、味より物量で価格が決まる仕組みに違和感を覚え、「誰のためにつくるのか」を大切にす農業へと歩みを重ねてきました。チャヴィペルトで提供する野菜や惣菜は、日々の食卓を支える存在として地域の人々に親しまれています。その取り組みは都心へも。季節の節目には、シェフをはじめ様々な業態の人たちが畑を訪れ、旬の野菜と向き合いながら本来の味わいを生かした料理が生まれるなど、その出会いが新たな販路へと繋がっていきます。新鮮で旬のものを、使う人や食べる人の顔を思い浮かべながら届けられること。その距離感こそが、都市の中で育まれてきた農業のかたちです。



**CASE 02** 草加にある「ecoma coffee」は、2018年に生まれたスペシャルティコーヒーの専門店。丁寧に焙煎した一杯とともに、地域のこともたちの登校を見守ったり、地域の日常にそっと寄り添ってきました。2024年には押上・業平の「こまちベース」に2号店「THE MORNING FOLKS OSHIAGE」をオープン。Chavi Peltoさんをはじめ、草加で育んできた生産者やつくり手のつながりを大切に、周囲の“いいもの”から発想したメニューを届けています。草加と押上、二つのまちを結ぶこの挑戦。現在は草加の魅力を押上へ届けていますが、今後は押上で生まれた出会いや価値を草加へ持ち帰り、沿線にやさしい循環を広げながら、地域に愛され、一日を気持ちよく始められる場所を目指しています。



## Your vision becomes SOKA's vision あなたのビジョンが、草加のビジョンに。

リノベーションまちづくりに関心がある方、何かやってみたい方は下記にご連絡ください

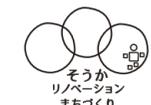
ご連絡窓口  
草加市 自治文化部 産業振興課 リノベーションまちづくり推進係  
048-922-0839 (直通) / sangyosinko@city.soka.saitama.jp

2025年度 そうかりノベーションまちづくり報告書

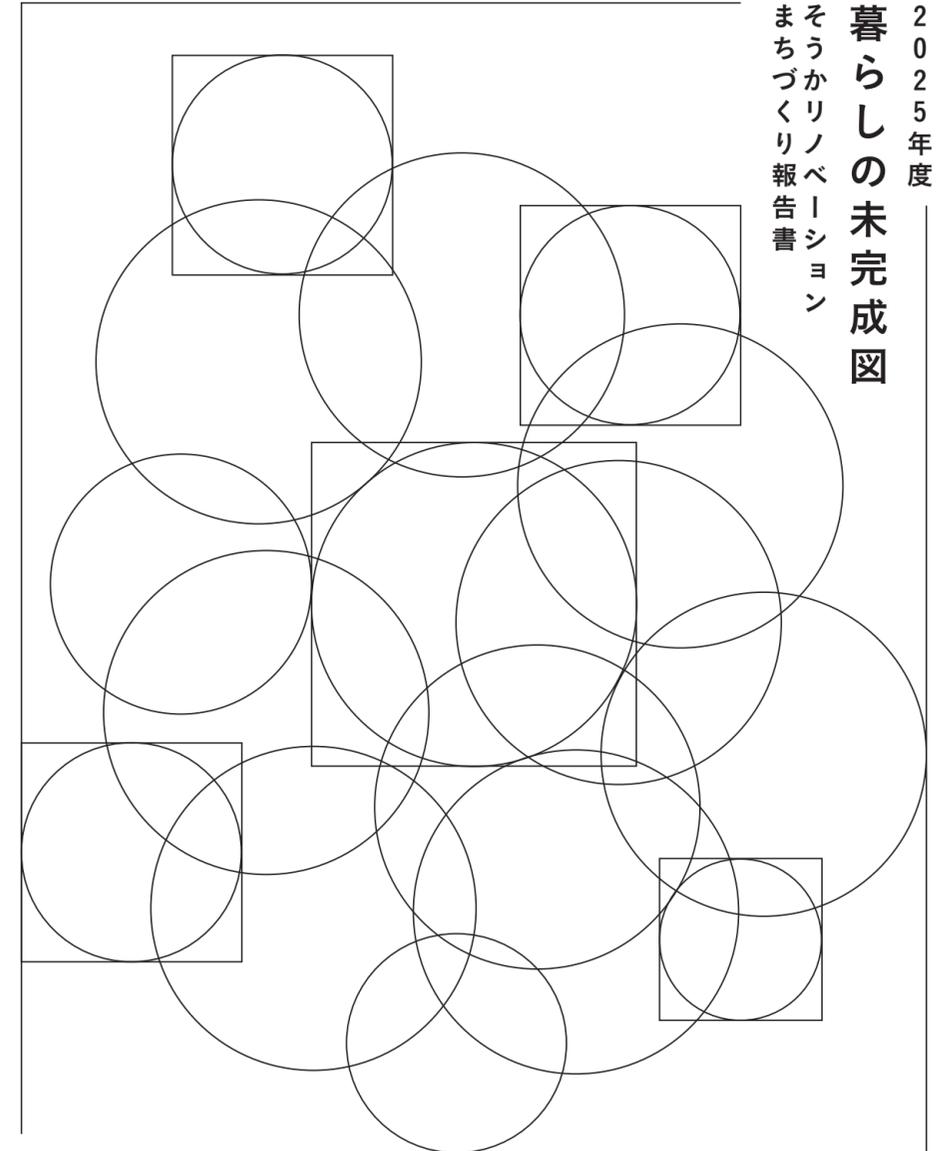
制作：草加市 自治文化部 産業振興課  
協力：(株)リベリング  
デザイン：バンド合同会社



# SOKA RENOVATION TOWN-MAKING REPORT



## 2025年度 暮らしの未完成図 そうかりノベーション まちづくり報告書



# THE NEXT DECADE AHEAD

## 挑戦の積み重ねが景色を変える - 草加が目指す次の10年とは -

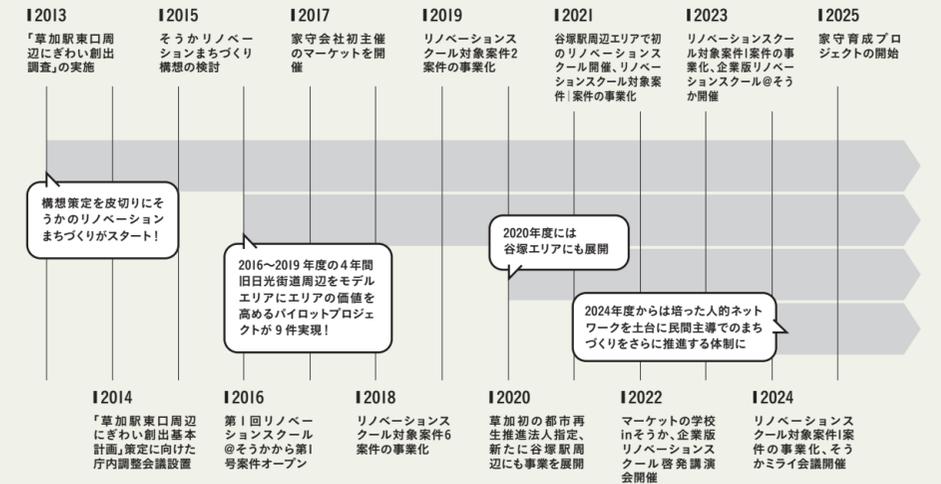
草加市では、2015年度から「そうかりノベーションまちづくり」を推進してきました。約10年の活動の中でリノベーションスクールを中心に、志のある市民がまちなかに実在する遊休不動産や様々な地域資源を活用して新しい暮らしの価値を育み、複合的に地域経営課題の解決にも繋がる事業やプロジェクトを創出してきました。そして2024年度のリノベーションスクールでは、「そうかミライ会議」と称し、そうかりノベーションまちづくりに関わる市民等が主体となり、そうかりノベーションまちづくりの次の展開について検討がされました。そうかミライ会議の中では、地域で活動する個人や企業等とさらにつながりを広げていきたいという考えが示され、行動としてのプロジェクトも提案され、実際に動き始めました。

今年度(2025年度)は、それらの想いを踏まえながら次なるステージとして家守育成プロジェクトを開催しています。これまで、そうかりノベーションまちづくりでは、まちに想いを持つ、たくさんの人材を発掘してきました。そうした方々も含めてエリアの大小は問わず、自分の想いのあるエリアで革新的な変化を起こせる人材を育て、その活動に共感する方々がつながりを持ち、多様な都市型産業が誕生することにより、そうかのまちの多くのエリアで「楽しい日常」「豊かな日常」が実現されていくことを目指しています。最後にリノベーションまちづくりの特徴にもある民間主導、行政支援の言葉のとおり、そうかりノベーションまちづくりに関わる民間の方々が見守る「欲しい暮らし」をそうかりノベーションまちづくりのビジョンにしていきたいと思ひます。



あなたのビジョンが、草加のビジョンに。

## そうかりノベーションまちづくりのあゆみ



## つなぐば家守舎 | 地域に寄り添った暮らしの再編集をしていきたい

第1回リノベーションスクール@そうから誕生した「シェアアトリエつなぐば」。長く草加の暮らしに寄り添ってきたこの場所は、代表の小嶋さんと松村さんが子育ての真っ最中だった頃、働く親が子どもと一緒にでも無理なく過ごせる場所を思い描いたことから生まれました。運営を始めて7年。いまでは活動が新田エリア全体へ広がり、場の使われ方も少しずつ変化してきました。子どもたちが成長した今、「子連れでいられること」を特別な価値として掲げ続けるのではなく、当たり前前の風景としてまちに根づいていってほしい。そんな思いが芽生えています。これからは、子育てという枠にとらわれず、それぞれが自分なりの“ワクワク”を持ち寄れる場所へ。つなぐばは、7年を経て次のフェーズへと歩みを進めています。



ふくちゃんが思い描いているのは、シェアアトリエつなぐばの目の前に広がる公園を活かした場づくり。ふくちゃんはアウトドアや自然が好きで、公園でもアウトドアを通して非日常を味わうことができたらと考えています。近所の人にも開かれた場所を目指し、夕方の散歩や週末の焚き火を通して、身近でアウトドアを楽しめる日常をつくらうとしています。



ポプさんは草加に暮らして12年。当時は知り合いも少なく子育てを孤独に感じていたことが、新田の駅前で開催していたマーケットに足を運んだことをきっかけに、人と繋がることの安心感や新田の面白さを感じ、自身も駅前にふと立ち寄れば誰もがつながれる風景をつくりたいと思うようになりました。地域の人、外から来た人も、ひとりの人も排除しない、緩やかなつながりの場をつくりたい。そんな想いを胸に、駅前でマーケットを開催予定中です。



築90年の古民家をリノベーションした「にわのば」は、「お庭とともに四季を感じる」をテーマにした複合施設です。お弁当やケーキ、着付け、写真スタジオ、キャンドル、リラクゼーションなど、多様なつくり手が集い、地域の人が自然と行き交う場として親しまれています。運営に関わるひろみさんと大家である父親は、ふらりと立ち寄った人が懐かしい気持ちでゆっくり過ごせる場所として、もっと地域にひらいていきたいと考えています。今後は住民が主役となり、和のしつらえを活かした体験を通して、この場所を地域とともに育てていきます。

## Roots | 草加で雇用とつながりを育み、まちに循環を。「Rootsがあって本当によかった」と喜ばれたい



Rootsは、地方創生に取り組む会社です。私たちが考える地方創生とは、コミュニティを先につくることではありません。事業をプロデュースし、仕事生まれ、雇用を通じて人が集まり、自然にコミュニティが広がっていくことです。草加を拠点に、プロモーション事業やBPO事業を展開し、東京のトップ企業と取引。求められるのは、東京の最前線と同じクリエイティブとスピードです。成長産業の第一線で活躍する企業と向き合いながら、受託にとどまらず、新しい事業づくりに挑戦しています。目指しているのは、「草加から東京へ通う」暮らしではなく、「草加で生活し、草加で東京の仕事をする」暮らし。携わる仕事や報酬は東京基準。暮らしは草加で、自分らしい選択を。徒歩や自転車通勤し、満員電車に乗らない日常が、ここにはあります。仕事に、誇りを。暮らしに、余白を。Rootsは草加から、新しい働き方と暮らし方を提案しています。

## S and | 谷塚で暮らす人の出会いや好きが生まれるような、日常の寄りどころを一緒に作りたい



S andは、建築士の佐藤さんと、営業の千葉さんによる二人組の設計事務所です。掲げているのは「まちと歩み、ひとを紡ぐ設計事務所」。建てて終わりではなく、完成後にどのような活動が生まれていくのかまでを一緒に考え、使い手が自由に関われる余地を残した建築と、そこに関わり続ける姿勢を大切にしています。拠点とする谷塚は、かつて豊かな日常が息づいていた一方で、今は寝に備るまちになりつつあります。S andは、日常のなかでふと立ち寄れ、人と出会い、何かが始まる「寄りどころ」となる場づくりを目指しています。自分たち(S)だけでなく、誰か(and)と共につくる拠点を中心に地域とつながり、設計を通じてかつて賑わいのあった商店街のシャッターを一つひとつ開け、まちの日常に、余白と楽しさを取り戻していきます。

## 新田 SHINDEN

## 谷塚 YATSUKA



# A TOWN ROOTED IN OUR COMMUNITY.

## 草加 SOKA

## スタジオスクリー | ものづくりと暮らしの距離がぐっと近づく拠点をつくり草加の創造力を育みたい

草加市にある創業63年のネジ屋「小林鉄螺株式会社」。その3代目である小林好輔さんは、後継者であると同時に、一級建築設計事務所「スタジオスクリー」の代表でもありますが。町工場に生まれ、建築設計の現場で育ってきた自身のルーツと職能を重ね合わせながら、いま小林さんが見据えているのは、まちものづくり、そのつながりの再設計。金属・樹脂加工など、まちの人が普段触れる機会が多いとはいえない製造業ですが、培ってきた技術や知恵を、雇用の創出や技術継承、そして日々の暮らしへと役立つかたちで還元したいと考えています。その一歩として見据えるのは、自分自身の拠点を、美しい町工場の製品に触れることのできる場所として、草加のまちに開くこと。暮らしとものづくりがもっと身近になれば、ゆくゆくはまちの新たな産業へも育つはず。それは草加の未来を創る大きな力になると確信しています。



## 奏草舎 | ふらりと立ち寄りたくなる場所に育てて行きたい

草加で20年以上カフェギャラリーコンバージョンを営む今井さんも関わる奏草舎。その奏草舎が手がけるのが、まちの人の「交差点」として生まれた「SOSOPARK」です。かつての日光街と今のメインストリートが交わるこの場所では、店主のこだわりが詰まった美味しいものや素敵なクラフト作品に出会えたり、時には地元出身のアーティストによる生演奏が楽しめたり。それぞれが思い思いに過ごせる心地よい空気が流れています。また、今井さんが楽しみにしているのは、提灯の下に約束がなくても自然と顔なじみが集まり、ぎゅうぎゅうになってお酒を楽しみながら語り合うひととき。そんな愛おしい日常の一コマを、これからも大切に残していきたいです。ぜひ、この場所と一緒に楽しんでみませんか？



## リヴ | 不動産相続&地域包括ケアの草加モデルをつくりたい

リヴは、不動産と建築を本業に、拠点ではカフェも運営しながら、住まいや場づくりを通して人の暮らしに寄り添ってきました。現在、新たに構想しているのが終活コンサルティングサービスです。不動産や建築の専門性を活かし、相続に関わる土地や建物の活用、売却、賃貸までを一括的に支援していこうとしています。背景にあるのは、親族や友人、過去の顧客から寄せられる相続相談の増加です。特に相続では、表に出にくい家族間の行き違いや感情のつれが生じることも少なくありません。リヴは当事者同士だけで抱え込みがちな状況に対し、これまでの経験をもとに、気持ちと現実の両方を整えながら、安心して次の段階へ進めるためのサポートを得意としています。これまで民生委員として活動してきた見と、リヴがもつ福祉団体、行政とのネットワークをもとに、相続のその先の暮らしまで見据えた伴走で、安心して年を重ねられるまちをつくっていきます。



## アークス | 地域の方々と学生をつなぐHUBとなり、多世代が交流できる拠点を作りたい

株式会社アークスは、草加市を中心に展開する地域密着型の塗装会社です。2024年からは不動産事業にも取り組み、中古物件の購入仲介やリノベーションを通して、「暮らし」を起点にしたまちとの関わりを広げています。そして今、アークスの統括部長である松山さんが目指しているのは、地域の人と学生がゆるやかにつながる拠点づくり。大学生向けの戸建て賃貸を舞台に、学生が自ら企画を立ち上げ、地域と自然につながりがもてる場を構想しています。その背景には、松山さんの教育への強い思いが、かつて学習塾の運営に携わり、子どもたちと向き合ってきた経験から、若い世代が地域の中で育ち、いずれ戻って働ける土壌の大切さを実感してきました。日々の「暮らし」の延長上に人と人がつながり、世代を超えた関係が続いていく。アークスは、そんな循環のある草加の未来を描いています。

